

## 小さな国の *B i g* な選手たち <2011 上海世界水泳選手権から>

「金メダルでロンドンオリンピック代表内定」というテレビ朝日系のキャッチフレーズで、いかにも日本選手が金メダルを獲得するかのようにマスコミが報道し、日本中が水泳の話題で盛り上がり、北島康介選手や入江凌介選手などの名前が、水泳に対しては **ずぶの素人** の人でもわかるほどになりました。静岡県水泳連盟としても松本弥生選手が日本代表に選ばれたりして、今回の 2011 上海世界水泳選手権は開催前から話題の多い大会となりました。

そうした中で、あまり知られていなかったことですが、この大会に参加したデンマークの代表選手団が 7 月 4 日から 7 月 20 日までの間、事前合宿として静岡県立水泳場（静岡市西ヶ谷）で練習していました。

デンマークの代表選手については、日本のマスコミで話題に取り上げられることはほとんどないし、もともと国の規模も日本の 20 分の 1（人口 500 万人）であり、選手の数もたったの 6 人だけ（日本代表選手は 22 名）という具合です。ただ、事前の情報としては、「女子長距離の世界ランキングトップの選手がいるらしい。」などという眉つばの話や、「ヘッドコーチはオランダ人でかなりの実績があるようだ。」というくらいのことが入っていました。

静岡県立水泳場の練習の様子をのぞいてみましたが、コーチの大声は聞こえませんでしたが、長時間の繰り返し練習で気合いを入れていることもありませんでした。試合前ですから当然といえば当然かもしれませんが。

静岡県水泳連盟の国際交流という意味を込めて 7 月 14 日に歓迎（激励）の夕食会を催しました。選手、コーチ、ドクターなどの方々と楽しい交流の場を持ちました。静岡市適応指導教室に通う小中学生の子どもたちが、激励の千羽ヅルを贈り、静岡市の特産品の人形や織物、箸などを記念品としてプレゼントさ

せていただきました。

そうした選手団が上海に向けて静岡を出発したのが、台風襲撃があった日の朝4時だったそうです。もちろん前日まで水中トレーニングを行い、とんでもない朝早くから代表選手が移動を開始するというのは、真綿でくるまわれた日本代表選手では考えられないことでしょう。飛行機のフライトすら危ぶまれていたのですから。レンタカーに全員が押し込められセントレアに向かいました。なんとか飛行機は飛び立ったようでした。

そんな関わりのあった選手たちですから、テレビ放送や、インターネットで日本選手以上に気にして見ていたのですが、結果は驚くほどのものがありました。期待の大きかった女子自由形長距離は、Lotte Friis選手が最初の400mこそ4位でしたが、1500mは堂々の優勝、800mも銀メダルという成績。女子100m自由形に出場したJeanette Ottensen選手は、世界中で話題になった同着金メダルの一人となりました。つまり、金メダルは2個、銀メダルも1個獲得したのです。たったの6人で。国別対抗では、日本よりはるか上にランクされました。「惨敗」という表現で、日本代表選手が帰国した姿がマスコミで報道され、うつむいて帰ってきた日本選手とは雲泥の差となってしまいました。

何がデンマークチームをそうさせたのか、また日本チームはといった評論をここで展開するつもりはありませんが、「小さな国の*B i g*な選手」たちが静岡で練習していたことだけは確かなことだったようです。Lotte選手なんかは、体も大きな選手でした。でもそれ以上に*B i g*な姿を見ることができました。日本のマスコミでは報じられなかったからこそ「2011 上海世界水泳選手権」の楽しい見方をさせていただきました。ニッポンがんばれ。もちろんデンマークもがんばれ。